

正しく動き、美しくつながり、強く創り出す「未来を生き抜く力」を育成する学校



「たい」のあられる時津小



↑こちらからも↑

令和5年12月15日（金） 発行人：校長 森内 秀学

子どものあいさつを向上させる方法

一昨日は、学校支援会議でした。その中で、「地域で子どもがあいさつしてくれなくなったという声を聞くことがあるが、どう思うか？」という話題がありました。参加されていた保護者や地域の方は、みなさん、口をそろえてこうおっしゃいました。

「子どもと顔なじみになるくらい大人の方からあいさつすれば、子どもは自然とあいさつを返してくれるようになりますよ。」

子どもを育てるには、まず大人から。子どもの目線に降り、して見せる。さらっとおっしゃいましたが、子どもの姿の責任を大人が取ろうとするこの意見に、私は感動しました。

Cozy Room は、4人のCozysでスタート！

10月25日発行の本紙で募集したCozys（コジーズ）。教室で過ごすのが難しい状況になった子どもたちに、温かく寄り添いながら見守る、ボランティアメンバーの総称です。このたび、4人の方が協力してくださることになり、無事にスタートしました。

4人の方も、それぞれ仕事や用事がありますので、状況を見ながら参加可能な日や時間帯を探し、校長にメールで知らせるという形をとっていただいています。校長は、その情報を職員室のホワイトボードに示すことで、職員にも周知される仕組みです。

現在は、玄関から動かない子どもに寄り添い、一緒に外で見守ってくださったり、教室に入れず図書室でプリント学習をする子どもの隣で、読書しながら見守ってくださったりするなど、Cozy Room以外の場所で活動いただくことが多い状況です。それでも、「子どもに合わせなきゃね！」と笑顔で寄り添ってくださる姿には、もう感謝しかありません。時津小は、保護者にも地域にも支えられている、本当にいい学校です。



ゲストに学ぶ～警察と長崎外国語大学の留学生～

「百聞は一見に如かず」とはよく言ったもので、実際に見て感じたことというのは、深く心に残るものです。

左は、3年生の社会科の学習でお招きした警察の方。「暮らしを守る」という単元で、人々を事故や犯罪から守るためにどのような仕事をしているのか、わざわざパトカーで駆けつけて教えてくださいました。

右は、長崎外国語大学の留学生との交流。5年生の総合的な学習の一コマです。今回が2回目ですので、子どもたちも慣れたもの。怖気つかずに英語と日本語とジェスチャーで楽しく関わろうとする姿を見ると、地球が小さくなったような気がしました。

